

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	青森県立青森中央 高等学校
-----	---------------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

「あおもり探究」―地域活性化、魅力の再発見と創造 ―みつける・かかわる・とびだす～
ビオトープ班の活動 ―青森の希少な生物を守ろう～

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

青森市にある又八沼にはシナイモツゴという淡水魚が生息しており、青森市の天然記念物に指定されている。近年モツゴの混入が確認され、シナイモツゴは2%にまで減少している。そのため、個体数を増やすため、保護したシナイモツゴの繁殖の支援の活動に取り組んできた。学校のビオトープ池で産卵させ、稚魚を又八沼と青森市文化遺産課の池に放流することができた。合わせて、青森市内のビオトープの保全活動にも取り組み、地域の自然環境を本来の自然環境を取り戻すことができるように活動に取り組んできた。

◆発表内容

- 1 ビオトープ池でのシナイモツゴの繁殖
 - (1) 産卵基質の準備, 設置
 - (2) 産卵状況調査
 - (3) ふ化、稚魚の飼育
 - (4) 稚魚の放流（青森市文化遺産課、又八沼へ）
- 2 地域の自然環境の保護（又八沼）
 - (1) 生物調査・産卵基質の設置、産卵状況の調査・生息する外来種
- 3 青森市内ビオトープ保全活動
 - (1) メダカ郷和国, あずましの水辺での保全活動
 - (2) 浅虫水族館での見学会

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	青森県立青森西 高等学校
-----	--------------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

青森未来創造プロジェクト～SDGsの視点で青森の未来を考える～
「津軽塗キティを世界へ」

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

修理して長く愛用することができる津軽塗だが、県外における知名度不足や後継者不足など様々な問題を抱えている。若者ウケしないイメージを払拭し、津軽塗がサステナブルな産業として100年後まで生き残るために出来るPR方法は何か。研ぎ出し体験や工芸士の方々との交流を通じて得た気づきから高校生らしい視点で考え、ハローキティとのコラボ計画を立案した。

◆発表内容

- 1 津軽塗とは
津軽塗の歴史、技法
- 2 津軽塗が抱える問題点
県外における知名度不足、後継者不足、安価な製品との競争力不足など
- 3 津軽塗に対するイメージ
高価、古くさい、ダサいなど
- 4 研ぎ出し体験で感じたこと
物づくりの楽しさ、様々な模様や色がある、唯一無二のデザインができるなど
- 5 問題点解決のために取り組むべきこと
ハローキティに津軽塗模様の服を着せて販売することで知名度の向上を図る
- 6 まとめ
津軽塗が100年後まで生き残るために必要なことは何なのか

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	青森県立 青森北 高等学校
-----	---------------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

藍を使ったお菓子作りから見えてきたもの ～あおもり藍を生かした食品への挑戦～

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

青森市油川地区で無農薬で栽培されている固有の藍である「あおもり藍」の栽培体験から、藍染めのような藍色のお菓子を作ることはできるのか、また、なぜ藍を使った藍色の食品が少ないのかを疑問に思いました。そこで、藍色を食品に生かすことができるのか、実際に藍を使ったお菓子を作って、調べてみることにしました。

◆発表内容

- ・「藍」という植物について
- ・どうやって染めるのか
- ・「あおもり藍」とはなにか？
- ・「あおもり藍」栽培の体験 1
- ・「あおもり藍」栽培の体験 2
- ・「あおもり藍」栽培の体験 3
- ・「あおもり藍」栽培の体験 4
- ・「あおもり藍」栽培の体験 5
- ・「あおもり藍」染色の体験
- ・「あおもり藍」の栽培や染色体験を通して、発見や疑問をもつ
- ・実践① 藍の葉のパウダーを練りこんだお菓子作り
- ・藍を入れてみてわかったこと
- ・藍のお菓子が藍色にならないのはなぜ
- ・藍染めのようなきれいな藍色のお菓子を作りたい
- ・実践
藍を使用したお菓子作り
 - 1. クッキー 2. 水まんじゅう 3. 琥珀糖
- ・研究結果
 - 1. クッキー 2. 水まんじゅう 3. 琥珀糖
- ・考察結果
- ・次の課題
- ・最終実践

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	青森県立野辺地高等学校
-----	-------------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

「野高コンパス」自分らしく考える（オリジナリティ）力の育成を目指して
『心配性が先導する防災DX』

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

災害時の情報共有には課題が多く、通信インフラの不安定さや一方向的な情報の流れが原因で、迅速な支援が難しい現状がある。

これを解消するため、インターネットを活用した双方向の「避難者情報共有システム」を提案。行政とリアルタイムで共有することで、誤情報の拡散を防ぎ、現場のニーズに即した支援を可能にする。迅速かつ正確な情報共有が災害対応を充実させることを示し、次世代の防災DXの重要性を提案する。

◆発表内容

=====研究の背景・目的・動機=====

現在の避難所運営には、2つの大きな問題があります。

1. 避難者情報の伝達手段が不足していること

現状、避難者の情報を行政や病院に迅速かつ正確に伝える手段がなく、迅速な対応が難しくなっています。

2. 必要物資の情報伝達にタイムラグがあること

食料や医薬品などの必要物資の情報が行政に伝わるのに時間がかかり、物資の手配が遅れる可能性があります。

これらの問題が解決されない限り、避難所での生活は苦しいものになりがちです。例えば、避難者情報を基に、必要な病床数や医薬品の種類・数を迅速に特定し、手配することができるようになれば、避難所での生活が格段に改善されると思います。

=====仮説=====

この問題を解決するためには、避難者情報をリアルタイムで効率的に管理・共有できるシステムの導入が不可欠であると考えました。

=====研究内容・結果=====

私はこの問題を解決するために、避難者情報共有システムを開発しました。このシステムの特徴は以下の通りです。

1. 避難者情報の登録

避難所の受付担当者が、避難者の情報をソフト入力します。入力された情報はデータベースに保存されます。

2. 情報の可視化

登録されたデータは、リアルタイム可視化ソフトを使用してグラフ化されます。これにより、いつ、どのような人が、どれだけ避難してきたのかが一目でわかり、必要な支援が何かを知るツールになります。

3. アクセスの簡便さ

パソコンやスマホからアクセスでき、どこからでも必要な情報を確認できます。また、家族や友人の避難先がわかることで、従来の紙媒体での避難情報報告が不要になり、二次災害を防ぐことができます。

=====考察・問題点=====

このシステムにはインターネット接続が必要という課題があります。災害時には通信インフラが破壊される可能性が高く、インターネット接続が断たれることが予想されます。そこで、この問題に対処するための方法を考案しました。

=====解決策=====

衛星回線と独自の通信体系の構築を考えました。

1. 衛星回線

衛星回線を使用することで、従来のインターネット回線が破壊されても、宇宙にある人工衛星を経由してインターネットに接続できます。実際に、スターリンクというサービスが月額7千円で利用可能です。ただし、避難所全体に導入するとなると高額になってしまいます。

2. 独自の通信体系の構築

費用を抑えるため、1つの避難所にだけ衛星回線を契約し、それをハブとして他の避難所と通信する方法です。この方法では、自由に使用できる帯域を活用して、擬似的にインターネット接続を実現します。例えて言えば、Wi-Fi ルーターにトランシーバーを接続し、無線でインターネット接続を行うようなものです。現在、免許不要な電波帯を使用した独自の通信インフラを開発中です。この装置は最大 8km 先まで電波を届けることができ、最小のコストで全避難所に対応できます（野辺地町を想定した場合は）。

■モジュールとして考える■

私の他のソフトウェアと連携することでさらに高度な災害対応が可能です。例えば、次のようなソフトウェアと併用できます。

1. 災害情報収集システム

災害時に必要な情報を政府機関から一元的に収集し、効率的に知ることができます。

2. デマ情報駆逐可能な伝言板

当局が削除権限を持つ伝言板を活用して、細かい情報を収集します。

3. 指名手配犯顔認証システム

指名手配犯や凶悪犯が避難所に避難している場合、自動的に検出することができます。

これにより、避難生活が安心して過ごせるようになります。

=====まとめ=====

私が開発した避難者情報共有システムは、災害時の情報伝達や支援のタイムラグを解消し、迅速かつ効果的な対応を可能にします。さらに、インターネット接続を確保するための独自の通信手段を考案し、避難所全体に低コストで導入できる可能性を示しました。このシステムは、災害対応をより効率的で安全なものにするために、今後さまざまな場面で活用されることを目指しています。

私の公式ホームページから、このシステムを利用することができますので、ぜひご覧ください。

野澤システム

<https://www.nozawa-system.com/>



「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	青森県立黒石 高等学校
-----	-------------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

「黒石の魅力の種を育てる ～地域探究から見つめる黒石市～」
自分たちが学ぶ街から 自分たちが住む街を再見する

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

黒石高校では黒石市での2年間で身に付けた視点をもとに、今まで市町村民の目でしか見てこなかった自分の街の課題について広い視野で調査・探究してきました。それらの中から2つの取り組みについて発表します。

自治体職員へのヒアリング調査、街頭インタビュー、試作品づくりの結果を交えながら、このあと行う学区内の中学校での成果発表会の話もしていきたいと思います。

◆発表内容

1 平川市の観光客減少を解決するために必要なこと（黒石高校2年 山谷 祐生）

年々減少傾向にある平川市の観光客数。自分が住む街だからこそ、もっと色々な人に情報を発信して知名度を上げていきたい。この課題解決のために行った平川市役所の職員へのヒアリング調査、市内での街頭インタビューの内容を紹介しながら検証結果を発表します。

- （1）テーマ設定理由と仮説
- （2）平川市の現状と課題
- （3）アンケート結果
- （4）まとめ

2 塩分摂取量を少しでも減らすためには

どんな工夫をすればいいのか（黒石高校 2年 伊藤陽依）

青森県民が短命であることの理由の一つに「塩分摂取量過多」が挙げられています。将来栄養士を目指しているため、味はそのままでも塩分摂取量を抑えられる工夫ができないか、実際に自分で塩分を控えた料理を試作し、試食してもらいました。

- （1）テーマ設定理由
- （2）仮説
- （3）作った料理
- （4）まとめ

3 中学校での成果発表会の実施

2月18日（火）に黒石市立黒石中学校

2月19日（水）に黒石市立中郷中学校 ※今年度は小学校の先生方の聴講あり。

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	青森県立弘前南高等学校
-----	-------------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

住みよい街づくりにむけて ～自分たちに何ができるのか～

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

本校では、「1人1課題の設定」をする前に、まず地域住民が住みよい街づくりにむけてどのような意見をもっているかをグループ単位で実際にアンケート調査をした。その結果を整理・分析し、12月のクラス発表会で発表した。アンケートの結果、教育、健康・医療、雇用・産業、観光・交流、生活・安全などの分野について、年齢、性別、職業などの違いによってさまざまな意見があることが分かった。

◆発表内容

1 本校の「あおもり創造学」の取組

本校では、1年次の1、2学期は「探究活動入門」（探究のプロセスを学ぶ）として、「1人1課題の設定」のための探究活動を4人1組となってい、その結果をクラス発表会で発表した。来年度、今回の結果と自分の進路希望から1人1課題を設定し、さらに探究活動を進めていく予定である。

2 クラス発表会

「住みよい街づくりにむけて」というテーマで、アンケート調査によって地域の人から広く「地域が抱える問題」について情報を収集した。それをもとに整理、分析、まとめを行い、その結果をクラス発表会で発表した。発表会には市町村の職員の方などを招聘し、講評していただいた。

（代表グループの発表内容）

アンケートには10代～80代の人まで50人の住民の方に協力いただき、たくさんの声を聞くことができた。

アンケート調査の結果、職業、年齢、性別などさまざまな立場で、教育、医療、産業、観光安全などいろいろな分野についてさまざまな意見をもっていることが分かった。そこで、それらの問題にはどのような背景があるのかを考察し、どんな解決策があるのか考えてみた。

今回の探究活動をとおして自分たちがすべきことを今の自分たちが考えていかなければいけないことを改めて感じたので、今、すべきこと、できることを考えて行動していくことが必要だと思った。

最後に、これまでの活動の結果をもとに、もっと深く調べたいことについて、発表する。

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	十和田工業高等学校
-----	-----------

◆発表テーマ

県内企業の魅力発見
ー地域への貢献意欲の醸成、県内企業への定着促進ー

◆発表要旨（100～200字程度）

本校の4学科で例年実施している県内企業との連携事業等を活用し、生徒が県内企業の魅力や実際に現場に必要な知識や技術を調査・研究・企業での就業体験することなどを通して、卒業後の進路の達成やキャリア形成に意欲的に取り組む力を育成するために取り組んだ成果についてまとめ、また、各学科の取り組みから見えてきた地域の課題について考察し、県内企業で働く魅力とは何かを十和田工業高校全体として集約したものをまとめて発表するものである。

◆発表内容

1. 十和田工業高校の実施内容

- (1)機械・エネルギー科 インターンシップ先での説明。会社見学、「あおもり創造学」に係わる講演会
- (2)電気科 地域社会を理解する。上十三・三沢電気事業組合青年部との懇談会を実施
- (3)電子科 インターンシップ先での生徒との意見交換会と設備見学会の実施。
- (4)建築科 インターンシップ先で「建築の魅力と課題」を考える。建設現場見学会参加。

2. 各学科の取り組みから見えてきた地域の問題点と解決につながる取り組み

(1)問題点

人手不足・担手不足 独居老人、コミュニティの希薄化 社会的孤立、高齢介護、子育て、子育てと介護を同時に担うWケア、建物の老朽化、住宅需要の減少と空き家の増加、シャッター街、賑わいの喪失、未婚・晩婚化。

(2)解決や緩和につながる取り組み

社会福祉施設への訪問や物販による協業、災害時の各種支援やボランティア、備蓄品の準備や防犯パトロール、登下校時の挨拶運動や見守り活動、学校や地域のクリーン作戦、地域人材を活用した進路学習や面接練習、地域のお祭りや運動会などの行事の運営補助など

3. 生徒の感想

☆見えなかった地域の良さを知り、初めて触れた職種でもあり就職活動の視野を広げることができました。

☆地域ごとに様々な問題を抱えているけれど地域の人達が皆で協力し合って課題を解決しようとしているところに驚きました。問題を無くしていくためには、地域の人が一一人積極的に協力する必要がある。

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	三本木農業恵拓高等学校
-----	-------------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

総合的な探究の時間 ～ろまんパーク活性化計画～

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

5月の普通科2年生の授業にて地域の方からお話を聞いた。その際、道の駅 奥入瀬ろまんパークの駅長さんより、ろまんパークの客数が減少し、衰退しているという話を聞いた。

ろまんパークでのイベントを計画・開催し、ろまんパークそのものや魅力を知ってもらうことで客数を増やして盛り上げる、ろまんパーク活性化計画を行った。

◆発表内容

1 動機

ろまんパークに目を向けた理由は、5月に行われた地域の方からお話を聞く授業で、ろまんパークの駅長の上原子さんからお客さんが減少し、ろまんパークが衰退しているという話を聞いたことがきっかけです。ろまんパークにお客さんを増やし、ろまんパークを盛り上げたいと考えました。

2 計画

上北地域県民局が企画した地域活動実証プロジェクトに参加し、サポートしてくれるメンターさん、三本木高校の生徒と共にろまんパーク活性化計画を行うことにしました。

3 調査方法及び調査内容・結果

ろまんパークの現状を知るため、三農と三高の保護者・生徒を対象にアンケートを実施しました。

ろまんパークを知っていますか？という質問には保護者 145 人の内、知っている 132 人、知っているが行ったことはない 4 人と、多数の人が知っているという結果になりました。しかし、アンケートに回答した生徒 772 人の内、知らない 384 人、知っているが行ったことはない 103 人と、知らない・行ったことがない人が合わせて半数以上もいるという結果になりました。その結果から、まずは若い人達にろまんパークそのものや魅力を知ってもらうことが、ろまんパークの活性化に繋がると仮説をたて、これを目標とすることにしました。

次にどんなイベントだったら行きたくなりますか？という質問には、保護者・生徒合わせて 764 人のうちフードフェスティバル 584 人、ワークショップ 93 人という 9 割以上をこの 2 つが占める結果となりました。

これらのアンケート結果をもとに、私たちはろまんパークを若い人達に知ってもらうためにイベント名をわくわくぱくぱくろまんパークと題し、ワークショップも体験できるフードフェ

スティバルを行うことにしました。

4 アクション

イベント準備では主に宣伝活動、出店者さんとの交渉・連絡、ワークショップを担当する三高生と連携・協力をしながら活動を行いました。

宣伝活動では、Canva アプリを使い、ポスターとイベントのロゴを作成しました。ポスターを普通科 2 年生の生徒達にも協力してもらい市内のスーパー、コンビニ、市内全ての小中学校、付近の高校、三農校内への配布、掲示をお願いしました。また、三農祭でも配布しました。そして公式インスタグラムを作成し、主に出店者情報の発信や近況報告を行いました。その他に新聞やテレビにも出演し、宣伝することができました。

出店者さんは、若い人達に人気でそうなお店、冬のイベントになるので温かいものを提供するお店など、ターゲットを意識してどんなお店に声をかけるかメンバーで話し合いました。その後、お店に直接足を運ぶなどして、お店に出店交渉をしたり、キッチンカーの配置を決めるために現地でスペースを図ったり、マップをつくったりしました。三高生との連携では、三高生が行う旬の果物を使ったバスソルト作り体験会の試作品作りなどを一緒に行いました。

たくさんの準備をかさね、12 月 8 日普通科 2 年生から募集したボランティア生徒と共にイベントに臨みました。これがイベント当日の準備の様子です。雪かきや机やテントの配置、出店者さんへの挨拶、食品科加工食品の商品陳列を行いました。

そしてこちらがイベントの様子です。想像以上の集客をすることができ、ちゃんこ鍋の列が途絶えることはありませんでした。ボランティアの生徒には、食品科の加工食品の販売と農協女性部のきりたんぼ販売を担当してもらいました。キッチンカーの大半が完売し、食品科の商品も完売することができました。

5 結果

当日の来場者人数は、1161 人でした。1 週間前が 429 人、1 年前が 290 人、前年度と今年度の同じ時期と比較して、約 3 倍の集客に成功しました。来場者アンケートも実施し、1 番多く来場した年代が 40 代、2 番目が 10 代という結果になりました。子連れの人も多く、イベントを知ったきっかけはポスターチラシが多かったです。来場者の満足度も高かったです。この結果から、目標としていた若い人達にろまんパークを知ってもらったり、足を運んでもらったりすることができたと思います。

6 考察・まとめ

実現解決できたことは、アンケートを実施したことで、課題を明確にしてアクションに取り組めたこと、イベントを実際開催することができたこと、若い人達を集客することができたことです。できなかったことは、それぞれの予定などが重なり、仕事に遅れが出てしまったことと、開催時期が冬の寒い時期の実施になってしまったことです。

新しく発見・気づいたことは、イベントを開催するには準備期間にとっても長い時間がかかること、大人やボランティア生徒の協力なしには開催できないこと、情報共有の大切さです。身につけたことは、イベント開催の仕方、接客方法です。

そして 1 番に伝えたいことは十和田の魅力は高校生の力でもっとたくさんの人に伝えることができるということです。これからもこのような活動を続けていきたいと思っています。

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	八戸 高等学校
-----	---------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

八戸発見学～地元の「強み」を見てみよう～

- ①PART 1 「海の麒麟」
- ②PART 2 「ケミカルタンカー 世界シェア14%」
- ③PART 3 「菊一文字は赤の大鎧の肩に」
- ④PART 4 「自然海岸の価値」
- ⑤地域発展アイデア集

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

学校で独自に編集・配付した郷土学習テキスト『はちのへ～その風土と生活』を利用した座学ののち、「地域巡検」を実施して八戸の魅力を再発見した。「地域巡検」では、八戸通運株式会社、北日本造船株式会社、櫛引八幡宮、種差海岸を見学し、八戸の特徴的な産業や歴史的文化遺産、自然遺産について、体験的に理解を深めた。そののち、生徒個々に地域振興につながるアイデアを出し、レポートを作成した。

◆発表内容

①PART 1 「海の麒麟」

八戸通運株式会社では、一般の立ち入りが制限されている八戸港コンテナターミナルを案内してもらい、港湾設備やコンテナを間近で見学した。韓国や中国の海運会社のコンテナが多かったが、日本最大手ONE社のピンク色のコンテナもあった。コンテナ船からの荷揚げに用いられる巨大な2基のガントリークレーンは、県内ではここにしか見られない。ガントリークレーンは、その形状から「海の麒麟」と呼ばれており、その数はコンテナの処理能力を表す。世界の物流の基盤となっているコンテナ輸送網の中に、八戸も位置づけられていることを学んだ。

②PART 2 「ケミカルタンカー 世界シェア14%」

八戸市は1964年の新産業都市指定以来、臨海部を中心に工業化が進み、北東北随一の工業都市となっている。原料立地したセメント工場や輸入原料を用いた製紙工場・金属工場も立地しているが、八戸には関東以北最大の造船所である北日本造船株式会社がある。同社は当初、漁船の修理を主な事業としていたが、200海里問題で漁船需要が減ったことを受け、商船建造にシフトした。高い技術力が要求される特殊船舶の建造を得意としており、ケミカルタンカーでは2000年以降の建造船数が世界一となっている。

③PART 3「菊一文字は赤の大鎧の肩に」

八戸には、南部一之宮である櫛引八幡宮がある。甲斐から入った南部氏が創建した、鎌倉時代から続く神社で、本殿は重要文化財となっている。青森県内の国宝3点はすべて八戸市にあるが、そのうちの2つがこの櫛引八幡宮の所有する大鎧である。特に「赤糸威鎧」は、鎌倉期の金工細工の傑作とされており、兜と大袖には力強い「一」の文字があるため、「菊一文字の鎧兜」として知られる。春日大社の大鎧とともに「現存甲冑の双璧」と称され、令和7年7月から、春日大社で史上初めて2領が並列で展示される。

④PART 4「自然海岸の価値」

戦後の都市化の流れの中で、海岸の人工化が進み、護岸工事や埋立のなされていない自然海岸は、日本の全海岸線の半分以上となった。人間が立ち入りのできない急崖などを除くと、自然海岸はさらに少ない。その中で、三陸復興国立公園に含まれる種差海岸芝生地は、風光明媚な景観から、市民や観光客のレクリエーションの場となっている。現代においても年齢を問わず人々は海に触れ合いたいという欲求を持ち続けており、折を見て海岸を訪れる。種差海岸がもつ、全国的にも珍しい「海へ向かう芝」は、今後、ますますその価値を増していくのではないだろうか。

⑤地域発展アイデア集

1 学年生徒全員が地域振興につながるアイデアを出し、レポートを作成した。「櫛引八幡宮で鎧模造品の着用体験を行い、観光客増加を見込む」、「市民を対象に北日本造船株式会社の作業工程の見学や、完成直後の船に試乗する体験を実施し、八戸の産業を周知する」など、さまざまなアイデアが出た。八戸の地域資源を見つめ直し、地域の未来を考える機会となった。

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	むつ工業	高等学校
-----	------	------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

ジオパークからはじめる地域理解

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

「下北ジオパーク」をはじめとする様々な地域の魅力について探究活動を行った。その中で地元の「祭り」にスポットをあて、祭りの山車の製作に挑戦した様子を紹介する。構図の構想から軸組の完成に至るまで、木材加工の技術を習得しながら、約5ヶ月かけて製作した様子を振り返る。また、防災について学ぶなど、様々な視点から下北地域が抱える課題を知り、地元への愛着を深める活動を行った今年1年の取組みについて紹介する。

◆発表内容

- （1）自然や地形などに関する調査研究
 - ・下北ジオパークに関する講演会の開催
 - ・フィールドワーク～水源地公園散策
- （2）まつりに関する調査研究
 - ・ネブタ集会の開催
 - ・フィールドワーク～青森ねぶたを学ぶ
 - ・山車製作などを通して地域理解を深める
- （3）防災に関する調査研究
 - ・地域防災に関する講演会の開催



「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	青森県立三戸高等学校
-----	------------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

地域を舞台に学ぶ～魅力発信、三戸みらいキャンパス～

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

1 学年では、「三戸町魅力発信カリキュラム」と「地域探究フィールドワーク」を実施しています。前者は三戸町の特長を活かしたポスター作成活動で、後者は地域活性化に貢献する企業や学術機関を訪問する活動です。2 学年からは「三戸みらいキャンパス」に取り組み、地域活性化のアイデアを企画・実現します。今年度は「町守ろうの会」「南部まつり盛り上げプロジェクト」「〇戸の歴史探究」の3つのアクションを紹介します。

◆発表内容

三戸高校 1 学年では、「三戸町魅力発信カリキュラム」と「地域探究フィールドワーク」を実施している。「三戸町魅力発信カリキュラム」は、三戸町の特長をもとにキャッチコピーを作り、人の目を引く写真を地域の協力を得て撮影し、ポスターにする活動である。今回紹介する 2 枚のうち、三戸警察署に協力していただき完成したものは、三戸警察署に寄贈され広報活動に使われている。「地域探究フィールドワーク」は、地域活性化に貢献する企業や学術機関を訪問し学ぶ活動である。今年度は八戸市の企業 2 社と大学を訪問した。

そして、2 年生からは「三戸みらいキャンパス」というカリキュラムに取り組む。三戸郡の活性化につながるアイデアを考え、企画化し実現に向けてアクションを起こすことを目指す。今年度は 2・3 年生合同でカリキュラムを展開し、13 のアイデアが生まれた。本日はそのうちの 3 つ「町守ろうの会」「南部まつり盛り上げプロジェクト」「〇戸の歴史探究」のアクションについて概要を発表する。

「町守ろうの会」は、防災士の資格をもつ 3 名がチームを作り、三戸郡の住民の防災意識を高めるために、南部まつり会場で防災展を出展した。馬淵川周辺の地形図で作成した、来場者の自宅が氾濫時に危険かどうかを確認できるハザードマップや、段ボールベッドや災害時用テントを体験できる展示を行った。

「南部まつり盛り上げプロジェクト」は、祭りの実行委員会から来場者が楽しめる企画を任せられ、それに向き合った過程を発表する。最初は何もわからなかった高校生が、先人から講義を受けたり視察を行ったりすることを通して一つのプロジェクトを成功させた。

「〇戸の歴史探究」は、全国的にも珍しい、関連のある地名がつづく一戸～九戸の歴史について、書籍上だけではなく実際に現地を訪れ、歴史に詳しい方から話を伺うフィールドワークを行ってきた。そして、歴史を知るだけではなく、現在は一つの企画を思いつき実行に移そうとしている。この企画は来年度も継続する予定である。